

2018年11月発行

大学の就職・キャリア支援活動に関する調査

深刻な人手不足を背景に、売り手市場が続く2019年卒就職戦線。早期から高い内定率をマークする一方で、就職準備が追いつかず取り残される学生の存在もあり、大学には個々の学生に応じたきめ細やかな支援が求められている。就職支援の現場ではどのような課題をもち、対策に取り組んでいるのだろうか。

ディスコでは、全国の大学の就職課・キャリアセンターを対象に、2019年卒者の就職活動状況、2020年卒者への就職支援、低学年への支援など、多岐にわたる項目を調査、分析した。

【主な調査内容】

1. 2019年卒者の就職活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

- [1] 内定状況
- [2] 内定先企業の規模
- [3] 企業からの求人状況
- [4] 新卒採用市場の見方
- [5] 学生からの相談

2. 2020年卒者への就職支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5

- [1] 就職ガイダンスの回数
- [2] 就職ガイダンスの実施時期
- [3] 就職ガイダンスの出席状況
- [4] 学生の就職に対する意識
- [5] 合同企業説明会の回数
- [6] 合同企業説明会の実施時期

3. インターンシップについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8

- [1] 企業からのインターンシップ求人状況
- [2] 学生のインターンシップ参加状況

4. 低学年向けキャリア支援について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

- [1] 実施状況
- [2] 実施内容
- [3] 低学年向けキャリア支援の必要性

【Voice】 採用活動を行う企業に対する意見や要望

《調査概要》

調査対象：全国の大学の就職・キャリア支援担当部署
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2018年8月30日～9月22日
 回答学校数：327校

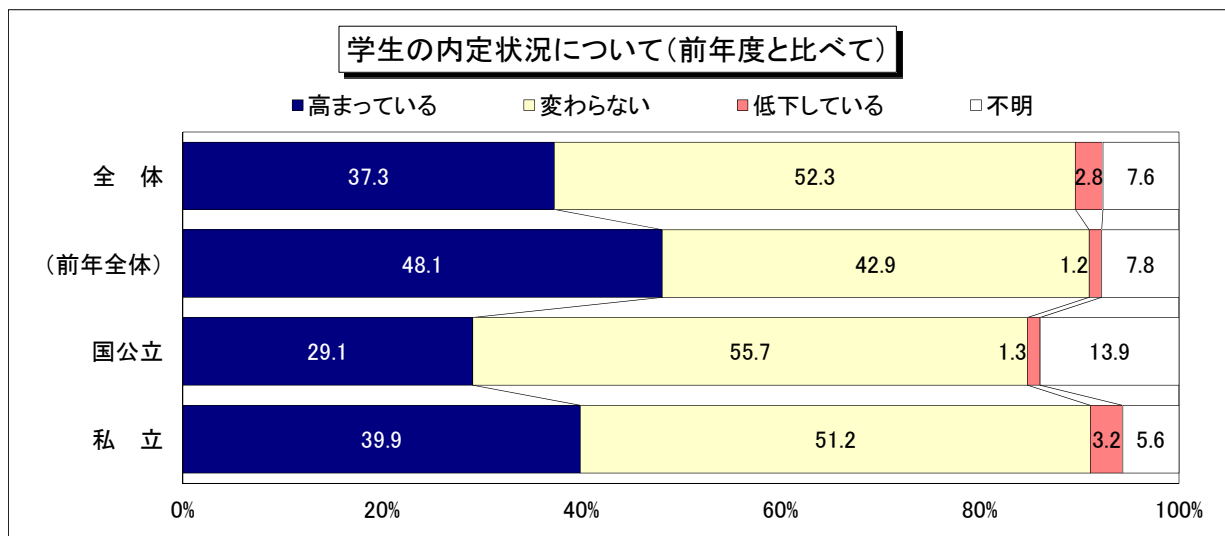
国公立	私立	合計
79	248	327

*「大学3年生」は6年制の5年生と修士1年生を含みます。また「4年生」は6年制の6年生と修士2年生を含みます。

1. 2019年卒者の就職活動状況

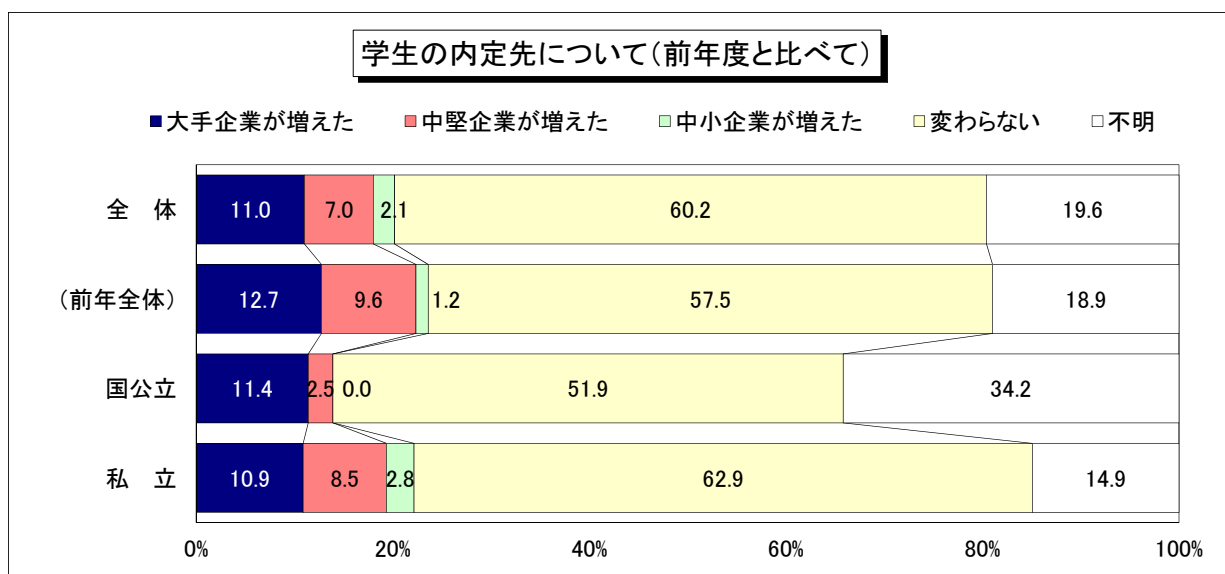
【1】内定状況（前年度と比べて）

2019年卒者（現大学4年生）の内定状況を尋ねた。前年度と比較して「高まっている」という大学が約4割で（37.3%）、「低下している」（2.8%）を大幅に上回った。前年調査では約半数の大学が「高まっている」と回答したが、そこからさらに内定率が高まった大学もあるだろう。内定状況の把握はこれからという大学も一部あるものの、国公立・私立ともに「高まっている」が「低下している」を大きく上回っており、就職環境の良さが表れている。



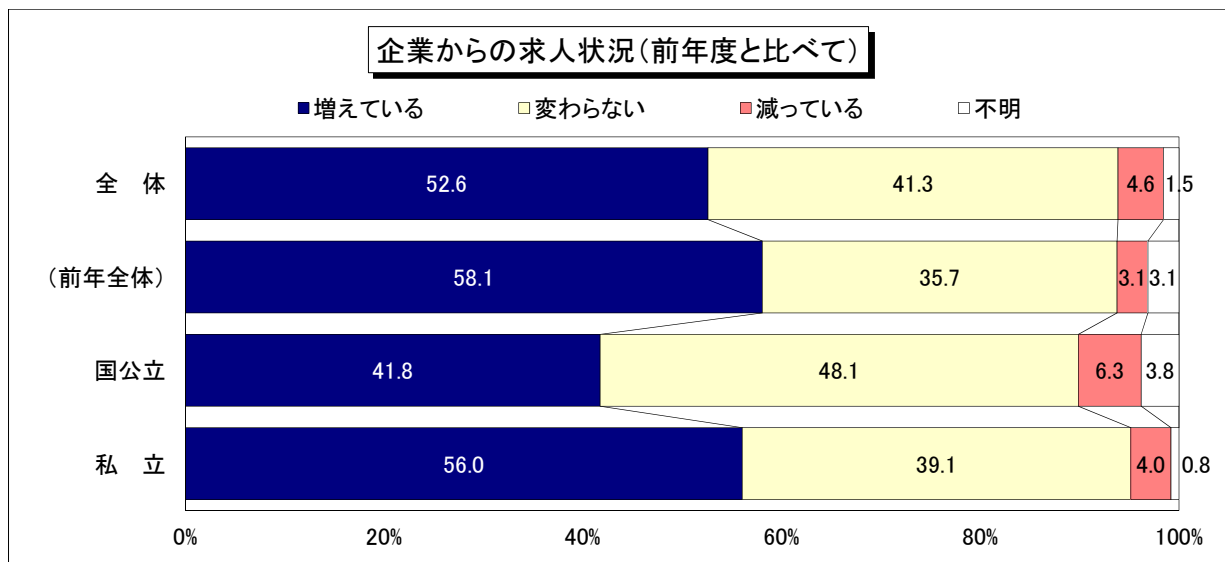
【2】内定先企業の規模（前年度と比べて）

学生の内定先について、企業規模の変化という観点で尋ねた。「大手企業が増えた」という大学は全体の11.0%、そして「中堅企業が増えた」は7.0%、「中小企業が増えた」は2.1%だった。大手企業の採用意欲は高く、大手志向の学生も多いことから、大手企業に就職を決める学生が増加しているのだろう。



【3】企業からの求人状況（前年度と比べて）

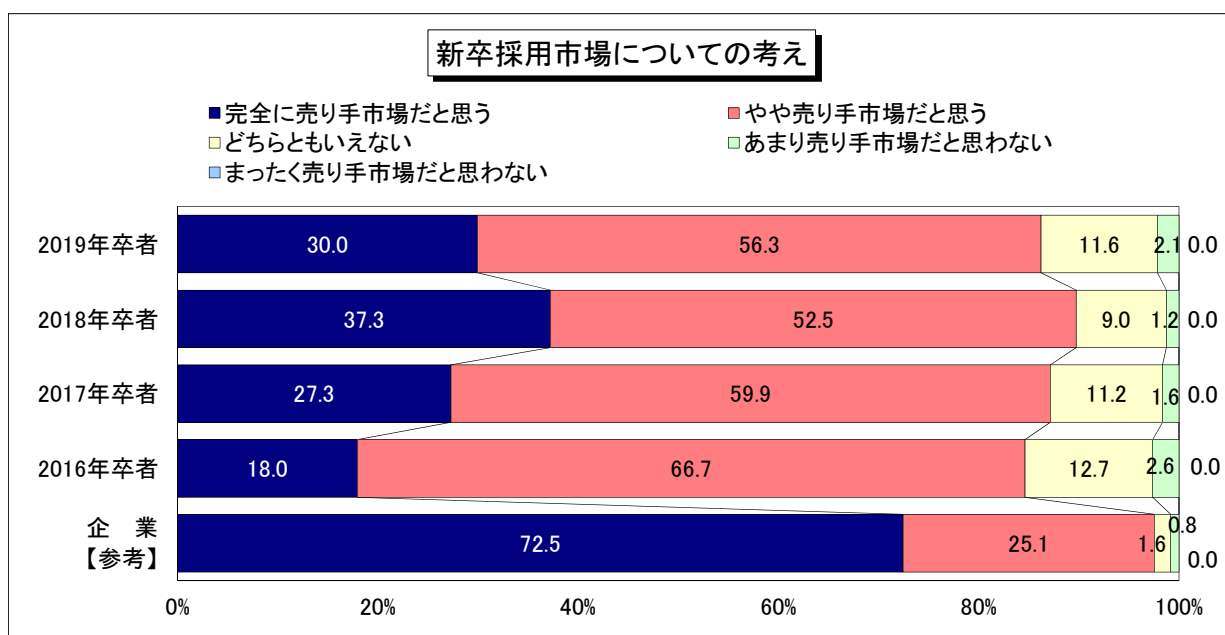
2019年卒者への企業からの求人が「増えている」という大学は多く、全体の半数以上（52.6%）が前年度と比較して「増えている」と回答した。前年調査でも「増えている」は58.1%と高かったことから、より多くの企業から求人が寄せられていたことがわかる。



【4】新卒採用市場の見方

今期の採用市場について、学生に優位な売り手市場かどうかとの観点で尋ねたところ、「完全に売り手市場だと思う」との回答は3割（30.0%）。前年まで2年連続で増加していたが、今年はやや減少した。ただし、「やや売り手市場だと思う」（56.3%）を加えると、9割近く（計86.3%）に上り、大半の大学が売り手市場を実感している状況は変わっていない。

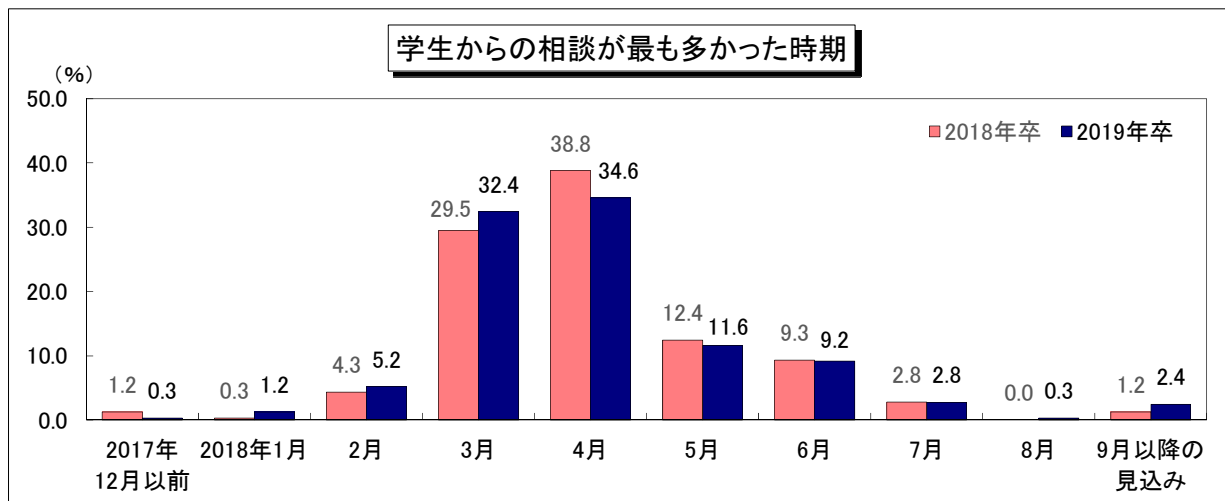
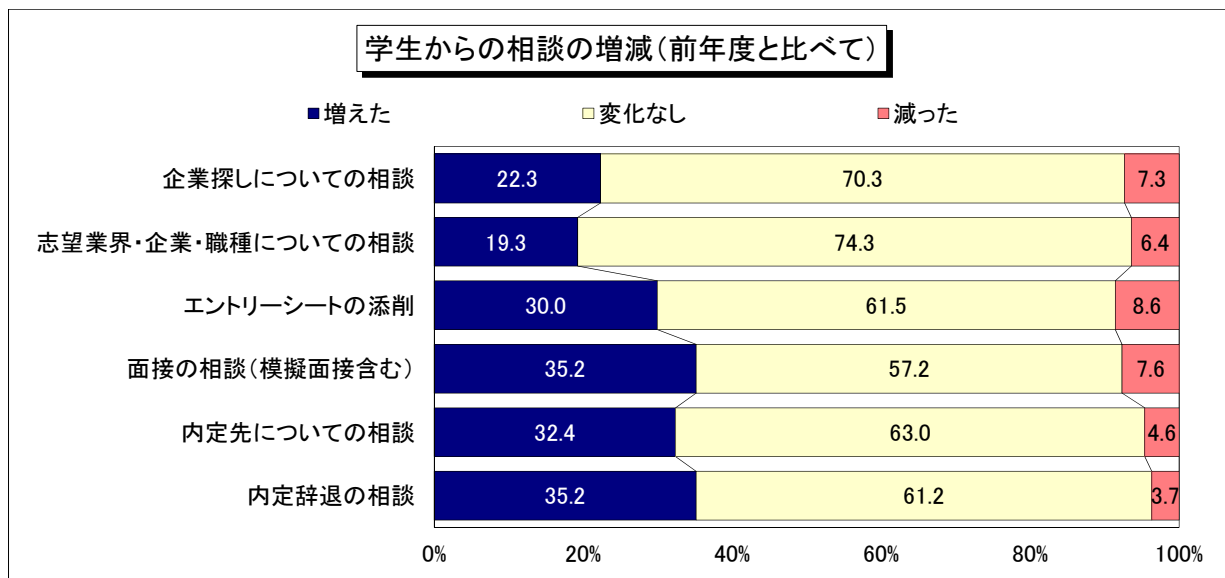
なお、企業への調査では、「完全に売り手市場だと思う」が7割を超えており（72.5%）、企業側の方がより強く売り手市場を感じていることがわかる。（2018年7月実施：有効回答1,329社）



【5】学生からの相談

学生からの相談内容ごとに前年度との増減を尋ねた。いずれの項目でも「増えた」が「減った」を大きく上回り、相談が増加した大学が多かったようだ。特に「内定辞退」の相談は、「増えた」(35.2%)に対し、「減った」はわずかで(3.7%)、複数の内定を手にした学生がそれだけ多かったのだろう。

相談が最も多かった時期を尋ねたところ、「4月」(34.6%)が最も多いが、「3月」(32.4%)が僅差で続く。前年に比べて、3月以前のポイントが増加しており、相談の時期が早まっていることがわかる。



■学生からの相談内容の特徴や変化

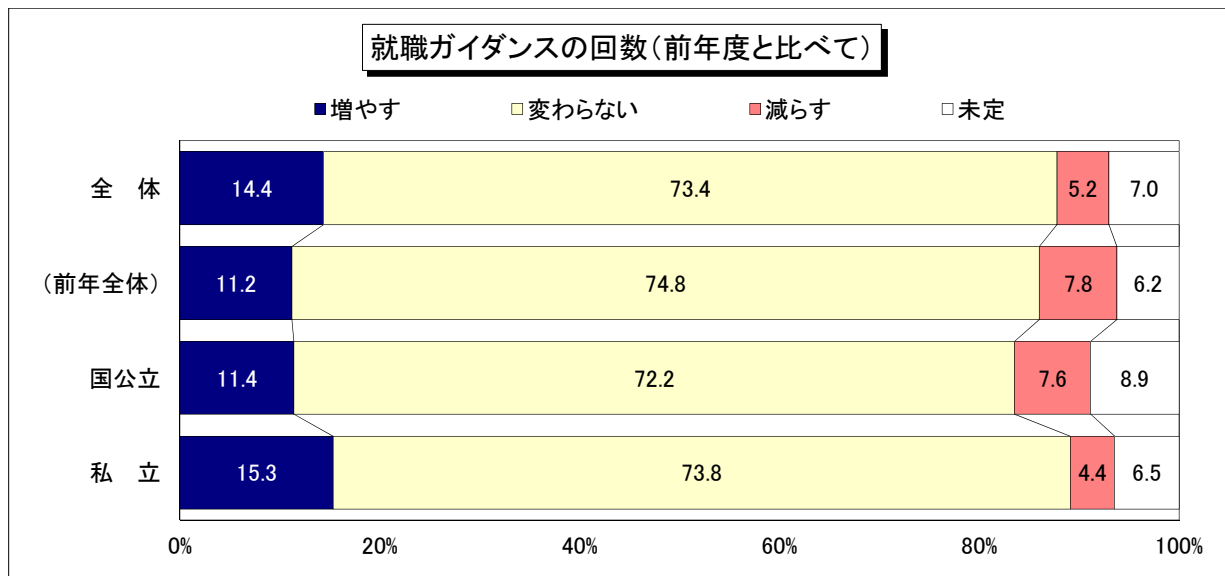
- 複数内定者が増えたこと、学生優位の売り手市場で「選ばれる」から「自ら選ぶ」視点に立った相談が増えた。 〈私立大学〉
- バラバラの業界・職種から内定を複数もらい、比較できない・決められない、という学生が増えたように感じます。 〈私立大学〉
- 学生の内定受諾・辞退に関する相談で、「受諾期限を決めずに内定を出すが、返答した頃に内定がなくなっている可能性がある」と企業に言われたという事例が増えた。 〈公立大学〉
- インターンシップのES添削の相談が増えた。 〈私立大学〉

2. 2020年卒者への就職支援

[1] 就職ガイダンスの回数（前年度と比べて）

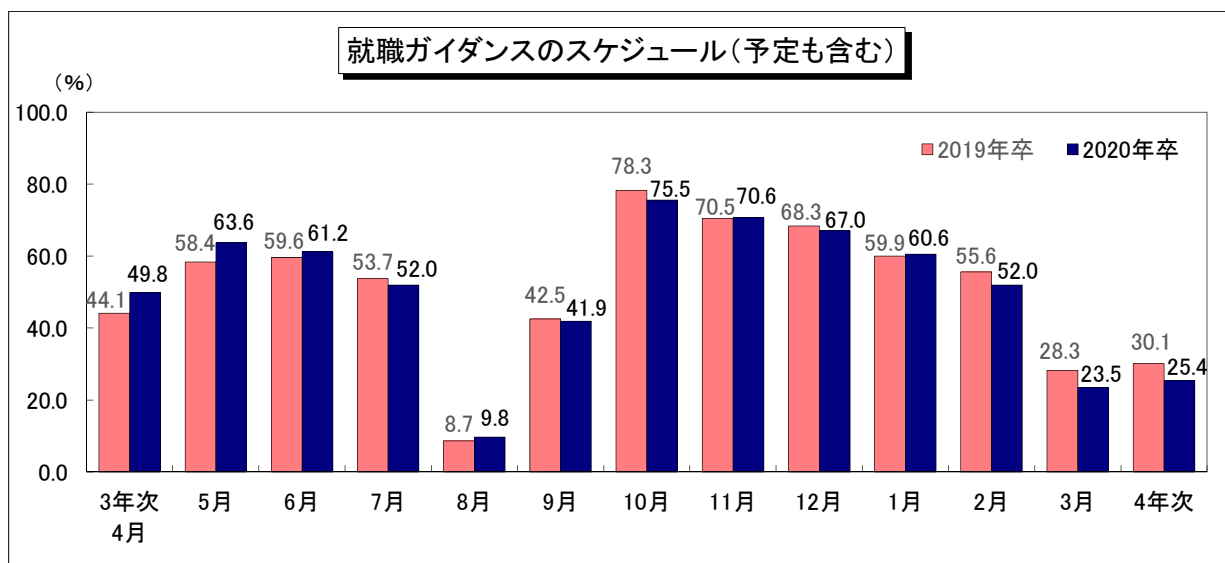
ここからは、2020年卒者（現大学3年生）への就職支援についてデータを紹介したい。

就職ガイダンスの回数は、前年度実績よりも「増やす」という大学が14.4%。「減らす」の5.2%を上回っている。前年に引き続き増加傾向で、ガイダンスを強化している動きがうかがえる。



[2] 就職ガイダンスの実施時期

現3年生向けの就職ガイダンスの開催が多いのは10月から12月にかけてで、それぞれ7割前後の大学が実施すると回答した。ただし、休暇期間を除くほとんどの月において、過半数を超えており、年間を通して複数のガイダンスを実施する大学が多いことが読み取れる。特に4~6月にかけてポイントが増加しており、インターンシップなどをテーマにした早期ガイダンスを強化する大学が増えたことが推測できる。

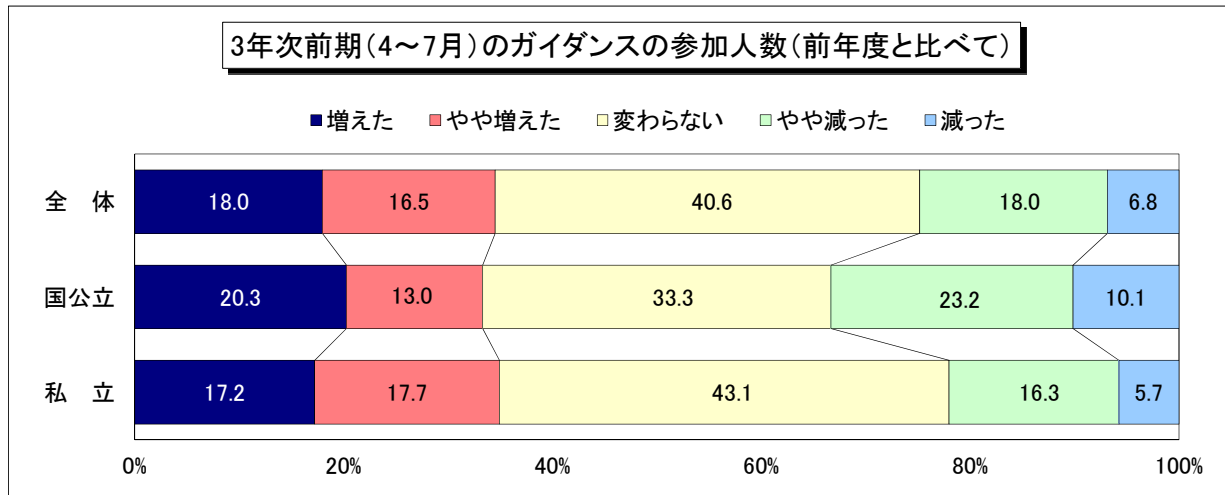


《国公立・私立別》 (%)

2020年卒	3年次4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4年次
国公立	41.8	72.2	63.3	58.2	10.1	21.5	87.3	79.7	78.5	72.2	62.0	30.4	21.5
私立	52.4	60.9	60.5	50.0	9.7	48.4	71.8	67.7	63.3	56.9	48.8	21.4	26.6

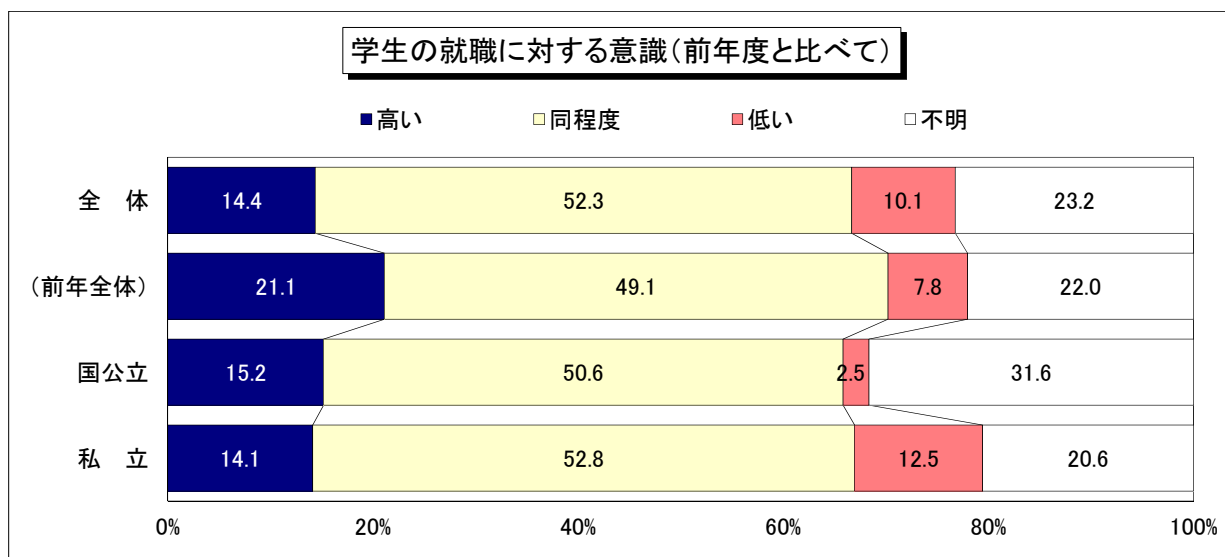
【3】就職ガイダンスの出席状況（前年度と比べて）

3年次前期（4～7月）に実施した就職ガイダンスへの出席状況を尋ねたところ、前年度と比較して「増えた」「やや増えた」と回答した大学は合わせて34.5%。一方「減った」「やや減った」は合わせて24.8%で、増加が減少を上回り、出席率が向上した大学が多い。



【4】学生の就職に対する意識（前年度と比べて）

現3年生の就職に対する意識については、前年度の学生と比較して「高い」（14.4%）が「低い」（10.1%）を上回った。前期の就職ガイダンスの出席者数が増加していることとも符合する。寄せられたコメントから、インターンシップへの関心の高さと比例して就職意識も高まっていると考えられる。

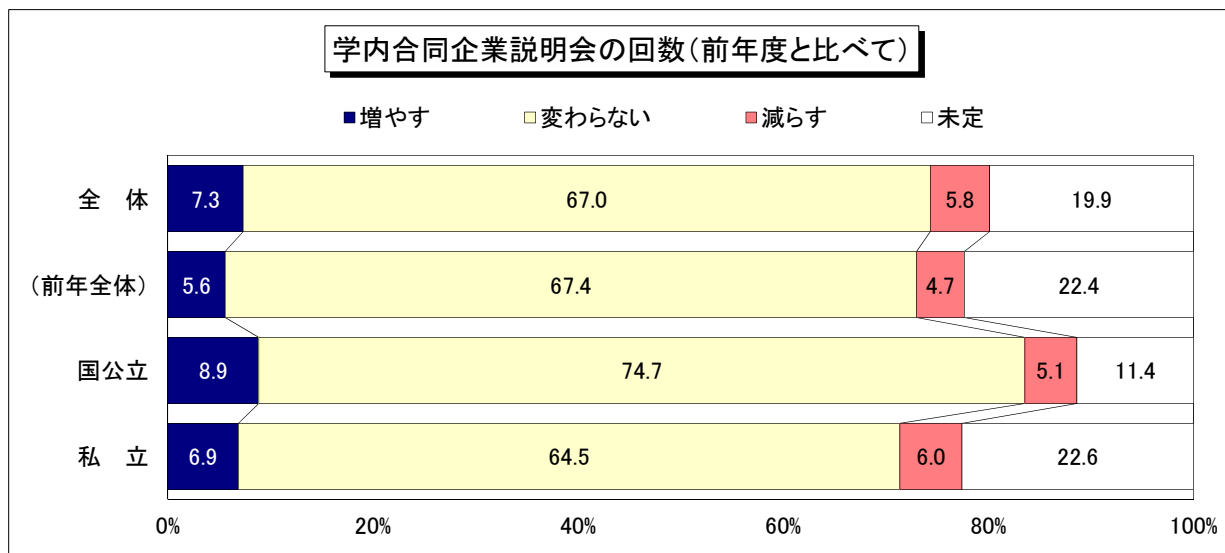


■学生の就職意識が高まっていると思う理由

- 夏季休業中のインターンシップに参加する学生が増加し、早めの就職活動開始につながっているように思われる。 <国立大学>
- ガイダンス、講座の数は減らしたが、出席人数は前年度を上回っていること、低学年時よりインターンシップに参加している学生が多いことから、意識の高さがうかがえる。 <公立大学>
- ガイダンス時期を早め、社会人基礎力やキャリアについて考える機会を増やしているため。 <私立大学>

【5】 合同企業説明会の回数

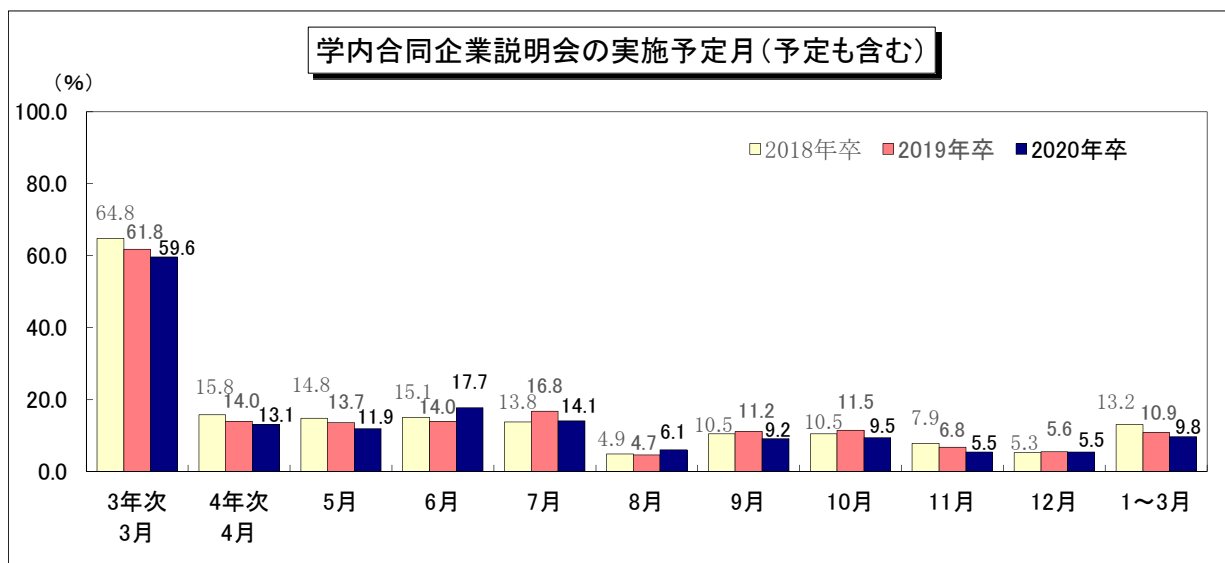
学内合同企業説明会の開催回数を尋ねたところ「増やす」（7.3%）が「減らす」（5.8%）を上回ったものの、大半の大学が前年の実施回数を維持する見込みだ。企業の参加意向は年々増加しているものの、物理的な制約や学生の動員増を見込めないことなどから、開催回数を増やせないという大学も少なくないようだ。



【6】 合同企業説明会の実施時期

学内合同企業説明会を予定している月をすべて選んでもらった。「3年次の3月」という回答が約6割（59.6%）と圧倒的に多い。ただし、3カ年分を比較すると減少傾向が見られ、採用広報解禁直後の3月への集中は薄らいできていることが読み取れる。

また、4年次の4月以降は、国公立よりも私立の方が実施予定の大学が圧倒的に多い。



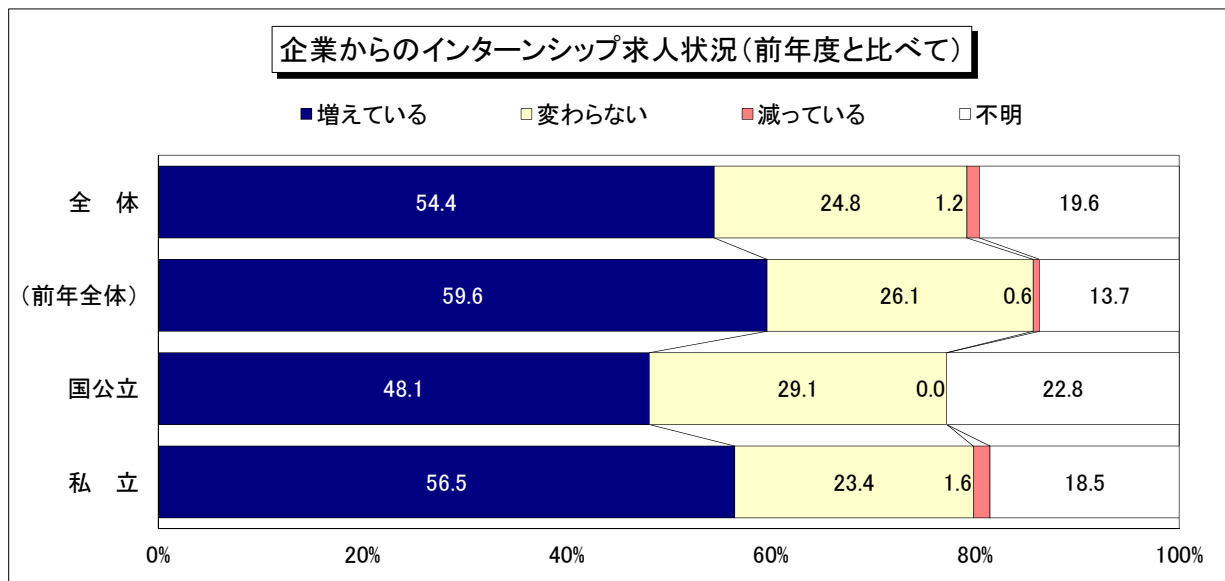
《国公立・私立別》 (%)

2020年卒	3年次3月	4年次4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月
国公立	72.2	7.6	3.8	8.9	10.1	1.3	3.8	3.8	2.5	1.3	6.3
私立	55.6	14.9	14.5	20.6	15.3	7.7	10.9	11.3	6.5	6.9	10.9

3. インターンシップについて

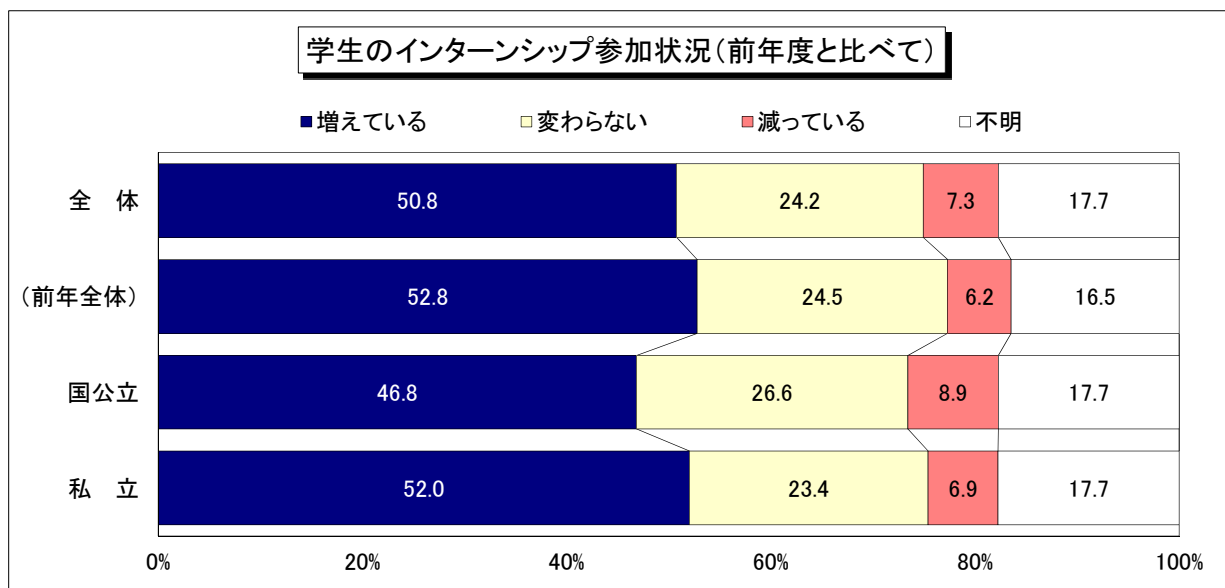
[1] 企業からのインターンシップ求人状況（前年度と比べて）

3 ページで見たように、2019 年卒者の求人が増加した大学が過半数に上るなど、企業の積極的な姿勢が表れていたが、インターンシップの求人についても引き続き堅調だ。前年度よりも「増えている」という大学が全体の過半数に上り（54.4%）、逆に「減っている」は 1.2%と少数。前年調査でも「増えている」は約 6 割あったが（59.6%）、さらに増加。インターンシップに注力する企業がかなり増加している様子が見える。



[2] 学生のインターンシップ参加状況（前年度と比べて）

一方、学生のインターンシップ参加状況はどうだろう。過半数（50.8%）の大学がインターンシップ参加学生は前年度よりも「増えている」と回答した。一方「減っている」は 1 割未満（7.3%）で、学生のインターンシップへの関心は今年度も高いことがわかる。国公立・私立ともに「増えた」が「減った」を上回っているが、私立大学において、より増加の割合が高い。

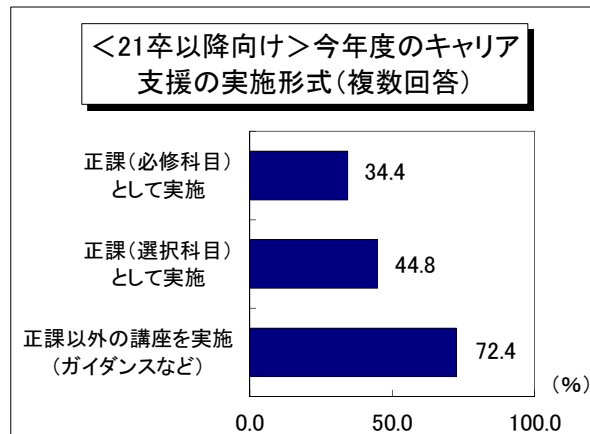
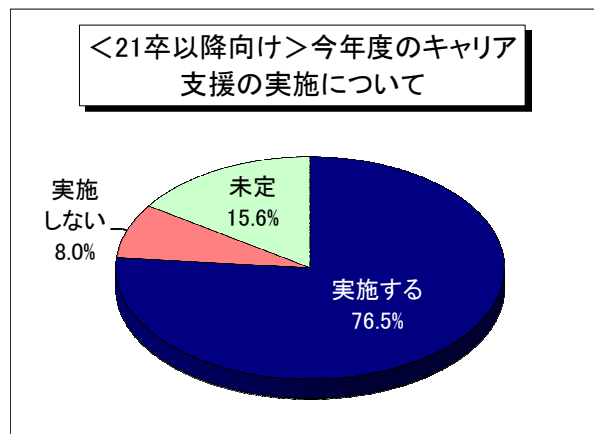


4. 低学年向けキャリア支援

[1] 実施状況

低学年（2021年卒以降）向けの今年度のキャリア支援を「実施する」大学は7割強（76.5%）。実施形式は、ガイダンスなどの「正課以外の講座を実施」が7割を超える（72.4%）。

全体的に、私立大学でより力を入れている傾向が見られる。



《国公立・私立別》 (%)

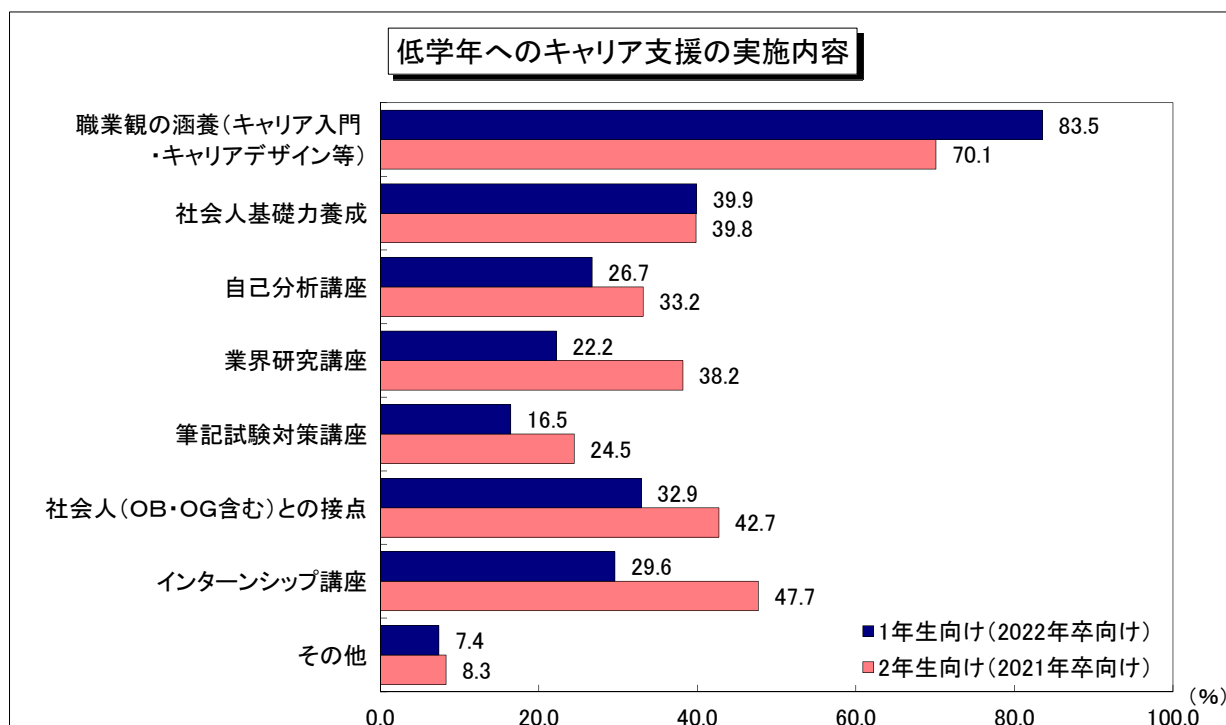
低学年向けキャリア支援	実施する	実施しない	未定
国公立	74.7	10.1	15.2
私立	77.0	7.3	15.7

《国公立・私立別》 (複数回答) (%)

キャリア支援実施形式	正課(必修科目)として実施	正課(選択科目)として実施	正課以外の講座を実施
国公立	28.8	57.6	67.8
私立	36.1	40.8	73.8

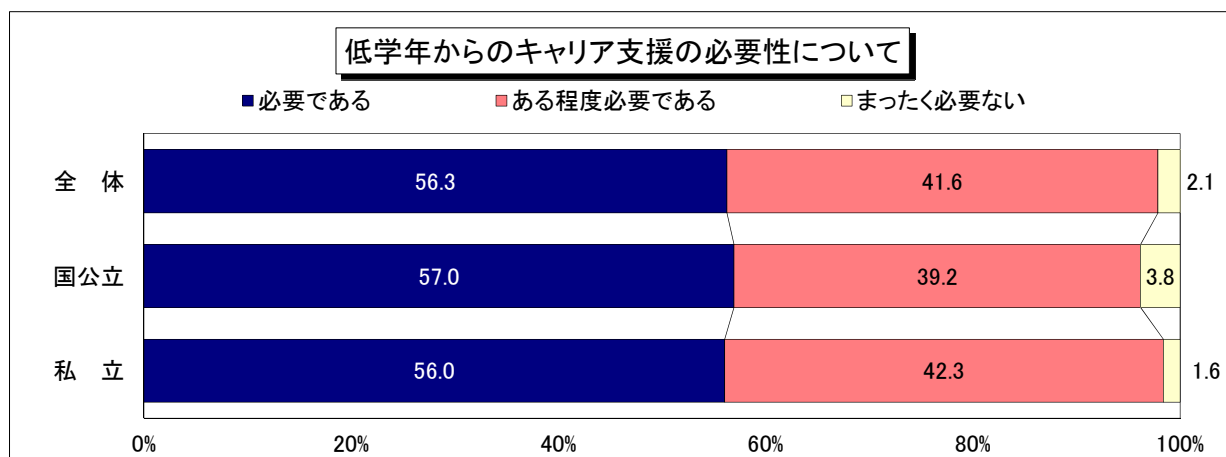
[2] 実施内容

実施内容を学年別に尋ねたところ、最も多かったのは、1年生向け、2年生向けともに「職業観の涵養」。特に1年生向けに実施する大学は8割を超えている（83.5%）。将来のキャリアを見据えて大学生活を送ることが重要と考える大学が多いのだろう。2年生向けでは「インターンシップ講座」（47.7%）、「社会人との接点」（42.7%）など、実践的な項目のポイントが高まる。



【3】低学年向けキャリア支援の必要性

低学年からのキャリア支援の必要性について見解を尋ねてみた。「必要である」（56.3%）、「ある程度必要である」（41.6%）を合わせると 97.9%となり、大半の大学が必要性を感じていることがわかった。国公立・私立での大きな差は見られない。



■低学年のキャリア支援で課題に感じていること

- 一部の意識の高い学生のみ参加しており、本当に参加してほしい学生層は参加していないように思われる。 〈国立大学〉
- 就活のテクニク的なことは教えないように心がけているが、学生が「キャリアデザイン」というふんわりとした題材をどこまで自分自身のことと思って参加できているかが課題。 〈私立大学〉
- やはり売り手市場という環境が、就職意識への必要性を阻害する要因となっている。 〈私立大学〉
- 支援内容の充実や体系化、ガイダンスに参加するための意識付け等が課題と考えられる。 〈国立大学〉
- 現状のプログラムは、自己分析等の内面的なことが多く、企業研究や職業観という実際に「働く」ということへの醸成がなされていない。 〈私立大学〉

【Voice】採用活動を行う企業に対する意見や要望

- 自社の若い社員の感性を活用して、学生にアピールできる企業情報の発信をお願いしたい。 〈私立大学〉
- ホームページの会社情報を充実させてほしい。たとえば財務諸表、中期経営計画の公表など。 〈公立大学〉
- 特に本年は、安易に内定を出される企業が多く、学生達も警戒している。自分が認められたと感じる面接や内定には、その企業に対する信頼を持つ傾向があるので、内定辞退とならないケースもある。 〈私立大学〉
- インターンシップが実質的には選考になっている。説明会に参加したら実際は選考だったなど、不明確な情報での採用活動は自粛してほしい。 〈国立大学〉
- 不器用でうまくコミュニケーションをとれない学生は毎年おられます。しかし、仕事に対する意欲は非常に高い学生が多く、そうした学生が不合格になっているように感じます。学生の良いところを見出すような採用試験があることを望みます。 〈私立大学〉
- 求人をしていただくことは本当にありがたいが、大学としては求人票入力に割かれるマンパワーが不足気味であり、できることならば求人票の電子化にご理解をいただきたい。 〈私立大学〉
- 就職活動を理由に留学を控える学生が増えないように配慮していただきたいと思います。 〈公立大学〉
- 近年、留学生の受入れが増えてきていますので、日本人と同じ土俵では戦わせないで欲しい。特に筆記試験は、いくら日本語コミュニケーションのできる学生でも難解だと思います。彼らの戦力化も早急に考えなければ、お互いに将来はないものと認識しています。 〈私立大学〉